

総務省主催第64回全国統計大会 & 第62回「統計グラフ全国コンクール」表彰式



全国から600名余りの参加者を数え、会場は熱気ムンムンの大盛況でした



各表彰を授与する皆さん



受賞者の皆さん

平成26年11月19日（水）午後1時半から、東京・代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホールで、総務省と統計情報研究開発センター主催する《第64回全国統計大会》が開催されました。

国、地方公共団体、関係団体等の統計関係者が一堂に会して相互の交流と研さんを行い、我が国の統計及び統計制度の進歩発展、統計思想の普及啓発に資することを目的に開催されたもので、全国から600名余りの関係者が参加しています。

また全国統計大会に合わせて各省大臣表彰はじめ《第62回統計グラフ全国コンクール》の入賞作品表彰、《日本統計学会会長賞》や《日本品質管理学会賞》の表彰、《大内賞》表彰が行われました。

主催者挨拶、祝辞の後、総務大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣など各省大臣表彰に続いて《第62回統計グラフ全国コンクール》応募数2万5千余件の中から入賞作品表彰並びに《大内賞》表彰、最後に《第35回統計シンポジウム》「IT化の進展と統計作成～オンライン調査の現状と課題～」が行われ、午後5時前に終了しました。

《第64回全国統計大会》各省大臣表彰



各種統計に係わる活動を展開、表彰を受ける皆さんと統計グラフコンクールの表彰対象の皆さん



《総務大臣表彰》



大分県の船田はるみさんと竹谷容子さん

《第64回全国統計大会》各省大臣表彰



《厚生労働大臣表彰》



受賞した株式会社TKCさん



《農林水産大臣表彰》



受賞した茨城県の増田さん



《国土交通大臣表彰》



受賞した兵庫県の家島建設さん



《経済産業大臣表彰》



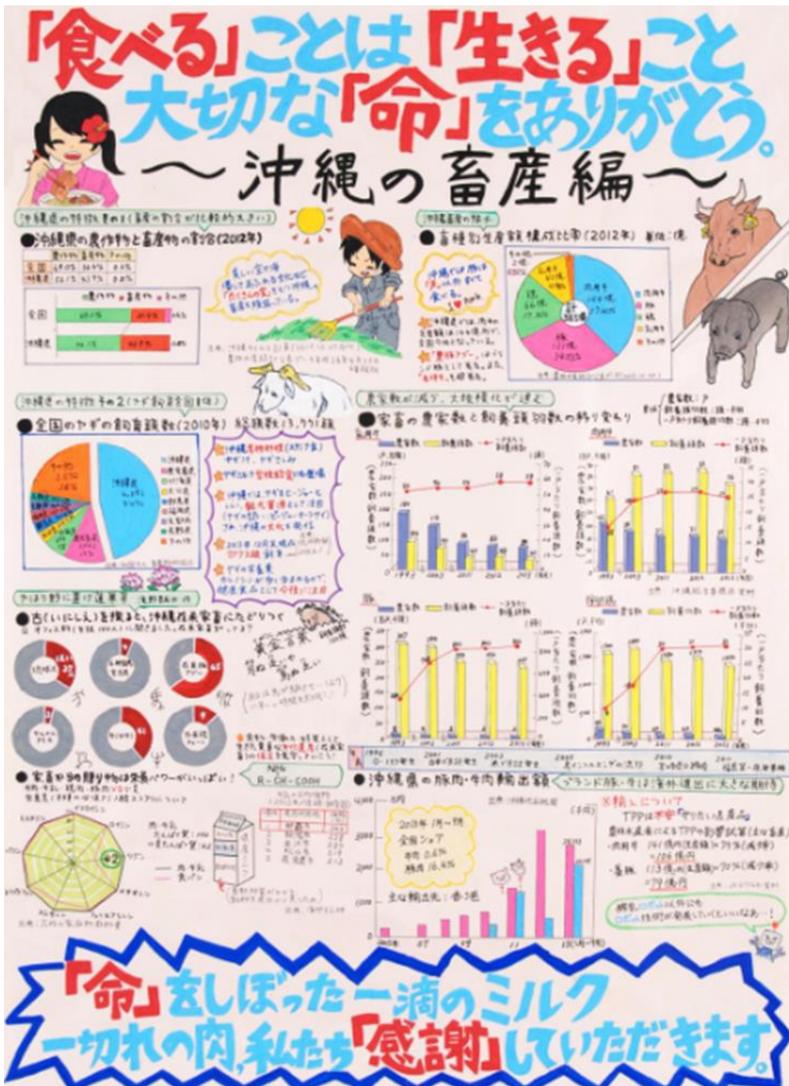
受賞した山形県の滝田ヨシ子さん

《第62回統計グラフ全国コンクール》各省大臣表彰

《総務大臣特別賞》（第5部特選）



《総務大臣特別賞》を授与されたのは、沖縄県立具志川商業高等学校の皆さんで3年生の長嶺希咲さん、新垣妃香莉さんそして1年生の宮城七海さんの3人です



沖縄からの受賞者の皆さん



《第62回統計グラフ全国コンクール》各省大臣表彰



《文部科学大臣奨励賞》第1部の特選を受賞したのは京都市立音羽小学校2年生の稲波里沙さん

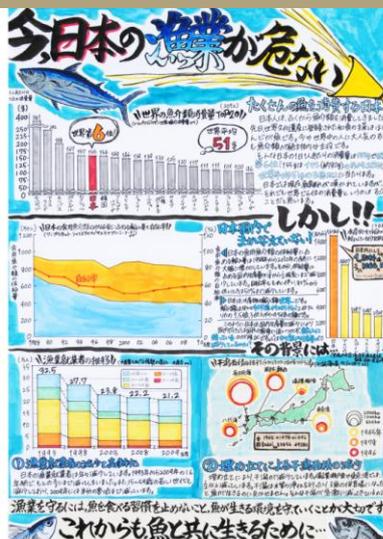
《文部科学大臣奨励賞》

《日本統計学会会長賞》（パソコン統計グラフの部）



日本統計学会会長賞は愛媛県立宇和島東高等学校の皆さん、国友直人会長から代表の末廣さんに授与

《日本品質管理学会賞》

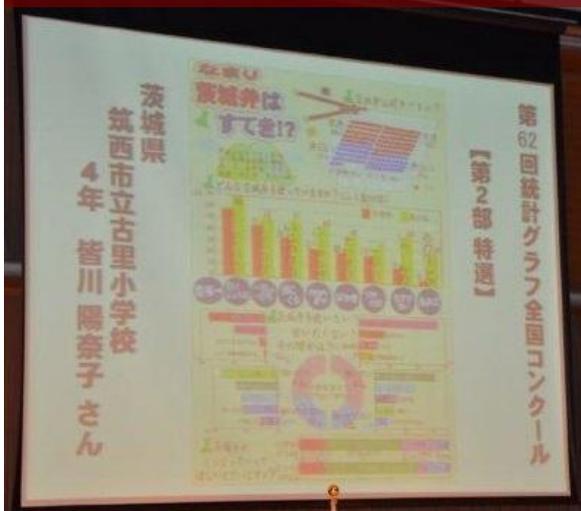


日本品質管理学会は長崎県長与町立長与中学校3年生の駒木さんに、大久保尚武副会長から表彰状を授与

《第62回統計グラフ全国コンクール》各部表彰



《第62回統計グラフ全国コンクール》の《特選入賞》した3作品は、第2部が『なまり、茨城弁はすてき！？』を制作した茨城県筑西市立古里小学校4年の皆川陽奈子さん、第3部が『あれから10年、忘れない7・13水害・中えつ地しん』を制作した新潟県見附市立名木野小学校5年の川上裕衣さん、そして第4部『SNSは本当に成績を下げる・・・？』を制作した福岡県福岡市立東住吉中学校3年の山田誠人さんです



《第62回統計グラフ全国コンクール》では小学校1、2年生の第1部、3、4年生の第2部、5、6年生が第3部、中学生が第4部、高校生以上の生徒、学生と一般が第5部の他、「パソコン統計グラフの部・小学校の児童以上」を募集し、優秀作品を表彰しています。

なお、各県から応募した優秀作品の中から全国審査に出品された作品には、総務省後援・日本統計学会公式認定の「統計検定4級活動賞」が授与されます。

《第62回統計グラフ全国コンクール》統計の日の標語



毎年10月18日が「統計の日」に定められていますが、この日を衆知するため毎年“標語”を募集しており、今年度は山口県野田学園高等学校2年の野村由佳さんの「統計は次代を読み解くパートナー」が選ばれました。

国勢調査はじめ私たちの生活に関連する多くの統計データが収集されていますが、さらに皆さんの統計への関心を高めるため、左のようにこの標語を盛り込んだ楽しそうなポスターが制作され全国各地の自治体の窓口や統計関連部署などに、配布され、掲示されています。

《第64回全国統計大会》…《大内賞》表彰風景



「大内賞」は第二次世界大戦後に日本の統計の再建に尽力された大内兵衛博士の業績を記念して、昭和28年度に設けられました。

わが国統計界の最高の榮譽として統計の改善、発達にすぐれた功績のあった方々に贈られるもので、これまでに300名、3団体が受賞しています。

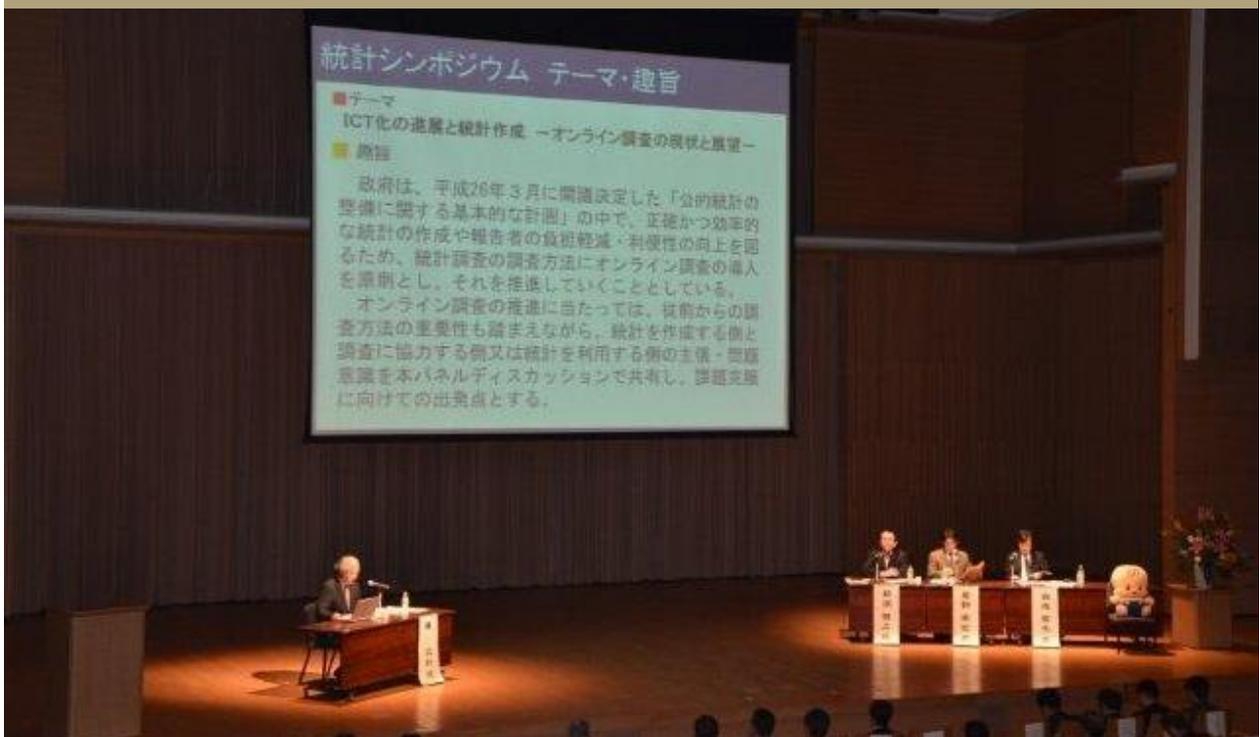
今年度の受賞者は北海道の神保正志さん、山形県の菅井ひろ子さん、福岡県の服部哉子さん、長野県の松岡榮子さんの4名が選ばれ、表彰されました。

表彰式最後には受賞者全員が起立し、受賞者を代表して北海道の神保正志さんが謝意を述べました。

《第64回全国統計大会》・・・記念撮影

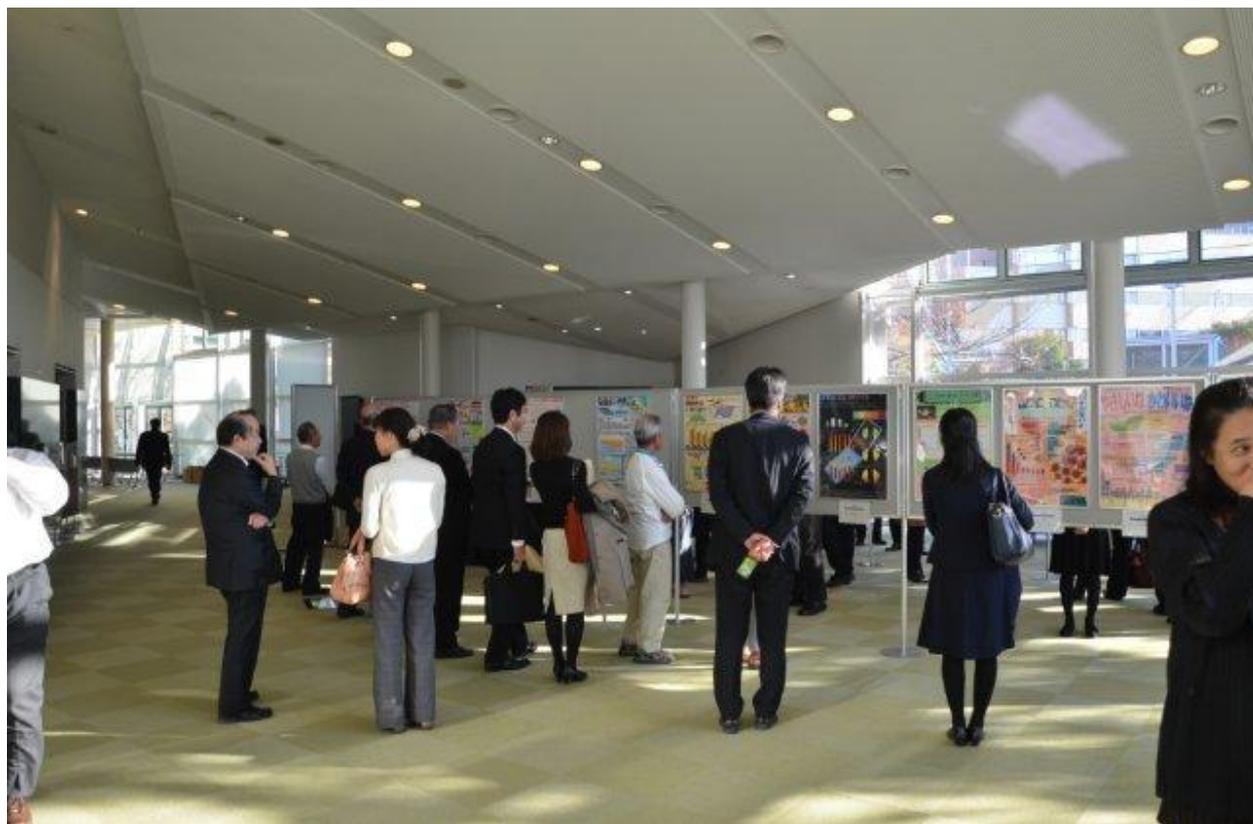


《第35回統計シンポジウム》

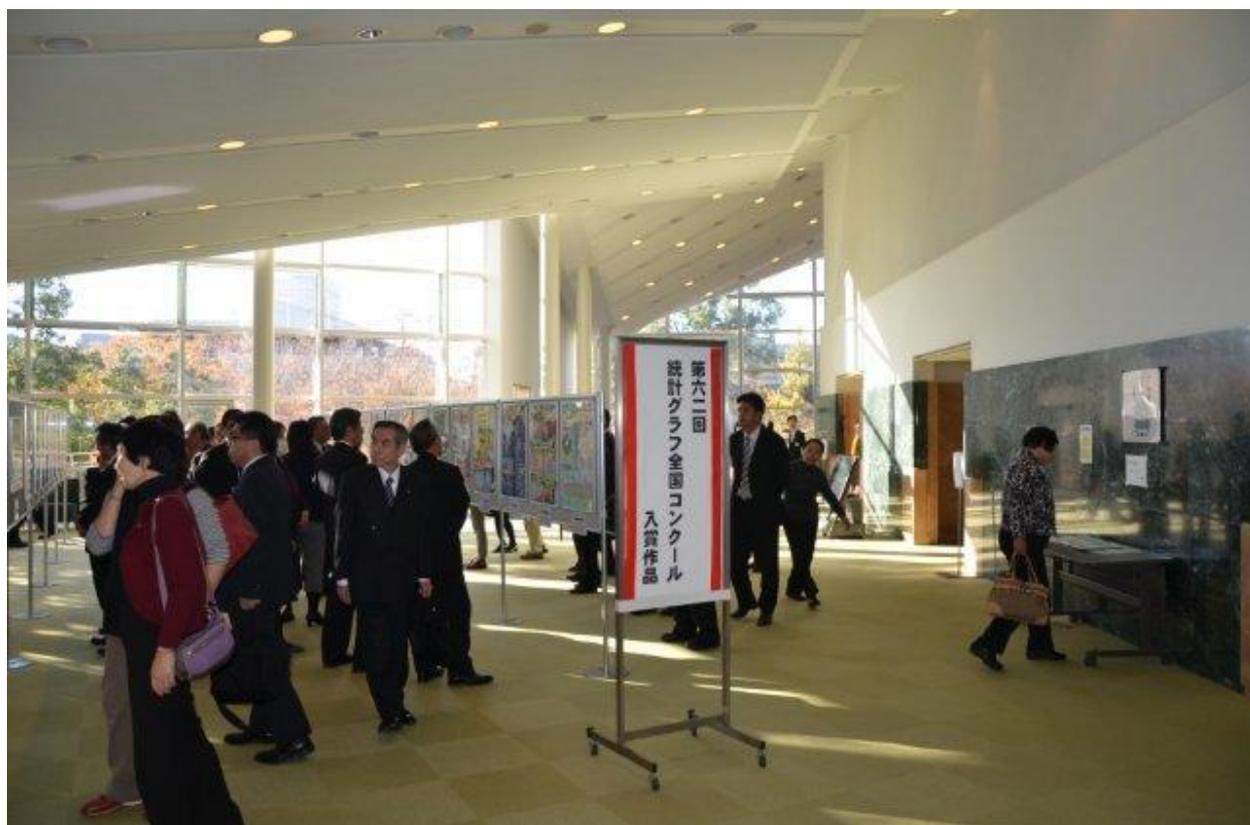


統計数理研究所の榎広計副所長をリーダーに行われたパネルディスカッションでは、トランスコスモス・アナリティクスの萩原雅之取締役副社長、東京大学大学院教育学研究科の星野崇宏准教授、総務省統計局統計調査部国勢統計課の岩佐哲也課長がパネリストとなり、オンライン調査の推進をテーマに、次回の国勢調査ではインターネットのみならずスマートフォンからの回答もできるようになることを受けて、今後予想される様々な問題などを議論しました。

《第62回統計グラフ全国コンクール》パネル展示



全国から2万5千点以上の応募があり、選ばれた優秀作品が展示されました



展示会場はご覧のとおり、皆さん入賞作品をご覧になりながら頷いたり、感心したりしていました。

近年“統計”関連の授業が強化されたこともあり、全国からの応募作品は一段とレベルアップしている様子です。

ブラッドオレンジの6次産業化で地域活性化

1. ブラッドオレンジについて



ブラッドオレンジの特徴

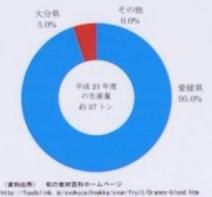
ブラッドオレンジは、インパクトのある真っ赤な果肉が特徴です。この赤い果肉はアントシアニン（ワインなどに多く含まれるポリフェノール的一种）を含んでおり、美肌や風邪の予防、ストレスへの対抗などに効果があるとされています。味はコクのある甘さ、濃厚な香り、すっきりとした酸味と豊かな風味が特徴です。ブラッドオレンジの原産地はイタリアのシチリア島で、タロッコとモロという2つの代表される品種があります。宇和島市ではこの2つの品種を栽培しています。

愛媛県宇和島市は、国内初のブラッドオレンジの産地化に取り組んでいます。地球温暖化影響で宇和島市の平均気温が上昇したことにより、栽培することが可能になりました。



宇和島とみかん畑

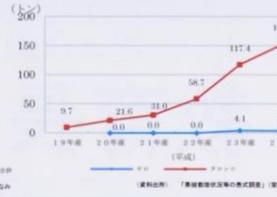
ブラッドオレンジの主な生産地域



宇和島市圏のブラッドオレンジの生産面積



ブラッドオレンジの収穫量(愛媛県)



宇和島市圏産のブラッドオレンジの販売金額



2. 6次産業化について

6次産業化とは

6次産業化とは、農山漁村に豊富に存在する地域資源をフル活用し、1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、新たな付加価値を生み出す取組（1次×2次×3次＝6次産業）。

6次産業化により、我が国の農業・食料関連産業全体の規模を拡大し、農林漁業・農山漁村サイドに取り込むことを通じ、農林漁業者の所得の向上や農山漁村地域の活性化を実現すること。

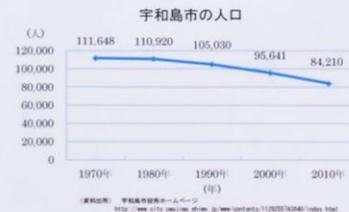
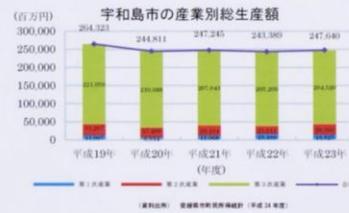
6次産業の市場規模

事業形態	市場規模
農産物の直接販売	0.6兆円
農産物の加工	0.3兆円
農産物等の輸出	0.5兆円
観光農園、農家レストラン等の事業	0.04兆円
計	1.44兆円

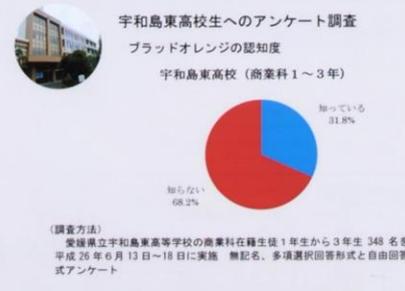
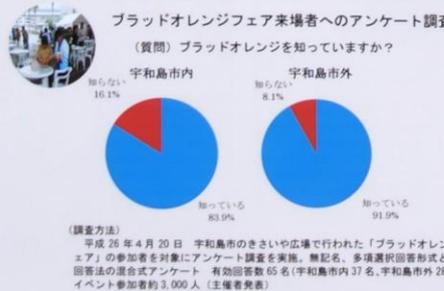
6次産業化の取組によるメリット(複数回答)



3. 宇和島市の産業経済の状況



4. ブラッドオレンジについての意識調査と宇和島東高校経済研究部の取組



愛媛県立宇和島東高等学校2年生の末廣多一さん、清水樹さん、松田拓巳さんと1年生の松浦弘貴さんと清家伊織さんが協力して制作したものです。

第5部「パソコン統計グラフの部」の優秀作品で、愛媛や宇和島の産業を分析しブラッドオレンジ生産の現状をグラフ化した説得力のある作品です。